

あなたの授業は何のために やっているのですか？

—モジュール学習の勧め—

斎藤 栄二 Saito Eiji

(京都外国語大学)

1 こんな話を聞いたことがあります。

みなさんの先輩にあたる 30 代後半の先生がたからこんな内容の話をされたことがあります。

「斎藤先生、私の生徒は「次の日本語を英語に直せ」式の問題はそこそこに点数をとるんですよ。特にその文型を教科書で学んだ直後などには結構書きます。しかし「自由に自分の考えを書きなさい」式のいわゆる自由英作文などになると、からっきしダメなんですね。何か方法はありませんか？」

また別の機会には、こんな質問を受けたこともあります。

「私の生徒はリスニングが弱いです。教科書でやった内容についての理解を問うような T or F 式のリスニング問題でテストをするとなんとかやります。しかしちょっと題材を変えようともうお手上げです。どうしたらいいんでしょうか。」

私はこういう質問に何回か出会ってきました。したがって私の答え方というか返事にも、一定の型ができてしまいました。

まず第 1 の質問に対する私の返事です。

「それで先生、授業の中で自由に自分の考えなど書かせる指導は、今日までで何回やられましたか？」

多くの場合、返ってくる答えにも共通性があります。

「そう聞かれると、はっきり答えにくいですね。とにかくほかの先生と進度も合わせなくてはなりませんし、内容理解とか発音指導などもあって、自分の考えを書かせるというところまであんまり手が回っていないのが実情です。」

というような返事です。

第 2 の質問についても私が、

「それでは先生、教科書と違った題材でのリスニングの練習は授業の中で定期的にやってますか？」

とお尋ねします。すると返事はだいたい次のようなものです。

「いや、なかなかそこまではできません。適当なりリスニング教材も見つかりませんし。」

と歯切れが途端に悪くなります。

そういう反応を何回となく聞きながら「先生がたは無茶な要求をしている」と私は心の中で思うのです。なぜなら私は次のように考えているからです。

(やったことがないことはできない。)

もう少し別の言い方で具体化してみましょう。

(自由英作文の力を育てようと思ったら、自由英作文を書かせなければ、生徒は自由英作文を書けるようにはならない。)

(リスニングの力をつけようと思ったら、リスニングの指導をしなかったら生徒のリスニングの力は伸びない。)

もう少しこの考えを広めると

(読む力を伸ばそうと思ったら、読めるようになるための指導をしなければだめ。)

(話す力を伸ばそうと思ったら、話せるようになるための指導をしなければだめ。)

要するに「やらないことはできない」ということです。当然ではありませんか。必要な指導を計画的にしないでにおいて、教室の中に座らせてさえおけば、そういう力が自然に伸びるなどということがあるわけないでしょう。英語教師はそんな魔法使いではありません。

「文法だけちゃんと説明しておけば、生徒のスキ

ルは各方面にわたって自然に伸びる」などという考え方はダメですよ。みなさんにはそういう待ちの姿勢はやめてほしいと思います。将来性のある皆さんこそは、そんな英語教師になってほしくないのです。

2 何のために授業をやっているのか、そのねらいははっきりさせてください。

例えば新年度の授業を始めるにあたって下のよう
な表をつくってみるのも1案です。

(第1段階) 今年の私の授業のねらい

自分の考えを口頭で表現する力を伸ばす	30%
読む力を伸ばす	30%
聞く力を伸ばす	20%
話す力を伸ばす	20%

これを仮に今年の目標とします。そうしたら最終の
テストに至るまで、この線で貫くのです。

続いて授業について第2段階の表をつくります。

(第2段階) 実際の授業における時間配分

自分の考えを口頭で表現する力を伸ばす活動	15分
読む力を伸ばす活動	15分
聞く力を伸ばす活動	10分
話す力を伸ばす活動	10分

(第3段階) それぞれのスキルを伸ばす自分の具体的指導方略

教科書を使って、それぞれの活動でどういう指導をするのかの戦略を考えます。

自分の考えを口頭で表現する力を伸ばす活動	()
読む力を伸ばす活動	()
聞く力を伸ばす活動	()
話す力を伸ばす活動	()

上の()の中が正念場です。「自分の生徒の力の現状」「今手元で利用できる教材」「自分の指導方法」などの変数を考慮に入れて、それぞれの先生が()の中を埋めていくことになる

ます。仲間と話し合うこともお勧めします。このプランニングこそがそれぞれの先生の力の見せ所になります。

(第4段階) テスト、全体を100点とした場合の点数配分

自分の考えを口頭で表現する力を伸ばす活動	30点
読む力を伸ばす活動	30点
聞く力を伸ばす活動	20点
話す力を伸ばす活動	20点
合計	100点

上のリストにしたがって問題の配点を考えてテストを作成してみるのです。まとめますと、

授業のねらいを決める→それに応じた指導の割当時間を決める→それぞれのスキルアップ方略を考える→実践→評価も最初に決めたねらいの配分の割合にしたがって行う

この考え方を私自身は「モジュールシステム」と呼んでいます。

実際の授業では常に計画した通りにはいかないでしょう。それはわかります。しかし、自分の授業をつくるにあたって、モジュール的な考え方を頭におき「一貫して努力してみる」というあなたの方略を確立するために力を注いでみてください。今まで先生がたはどちらかという伝統的なやり方にしたがって授業の組み立てを考え、教案を書かれてきたと思います。それはおおざっぱに言えば、

前時の復習→新教材の導入→展開→まとめ

といったものです。これはいわば「目に見えやすい」指導の形式です。ここで強調したいことは、上のそれぞれの指導段階で、「生徒のどういう力を伸ばす計画なのか」という「力を伸ばすための実質的なフィルターをかける」ということです。そういう発想が必要ではありませんか。授業は日々の工夫から成り立ちます。一步一步進みましょう。そうすればあなたは昨今よく言われる「指導力不足教員」などにならないことは間違いありません。